

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	体育センター陸上競技場	階数	地上3F
建設地	藤沢市善行7丁目3347番1他	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	1,000人
地域区分	6地域	年間使用時間	800時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2017年8月6日
敷地面積	8,000 m <sup>2</sup>	作成者	国設計
建築面積	2,293 m <sup>2</sup>	確認日	2017年8月22日
延床面積	2,564 m <sup>2</sup>	確認者	国設計



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

**標準計算**

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 2  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b> 建物の用途が、陸上競技場観覧席が主となる建物のため、①スタンドからの競技の見易さ、②大会等の大人数の利用者の安全な経路の確保、③工期が限定されているため、工期の短縮が図れる工法の採用。</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> 天井面は吸音性の高い仕上げ材を使用している。空調を行う居室の外周部には現場発泡ウレタンを吹付け、ガラスは複層ガラスを使用し断熱性を高めている。空気質環境については、化学物質を含まないF☆☆☆☆をできるだけ使用。また、建物内は全体が禁煙としている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 1階の階高を3.2mのため、天井高2.3m程度。設備スペースは点検のしやすい廊下にして配置し、余裕のある広さを確保。また、1階下部は全面配管ピットとしている。設備機器は、維持管理のしやすさとエコ材料に配慮したものを採用している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 全体の敷地は17.3万m<sup>2</sup>の広大な敷地。陸上競技場は敷地内通路から5m程度離れて建つ。また、長大な壁面とならないように、柱・梁のフレーム構成により圧迫感を軽減。既存樹木は可能な限り残し、構内通路に沿ったスペースに、新たな植栽を行い緑化整備を行っている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 空調は、本部室・役員室、選手用更衣室等に限定し、エントランスホール、廊下の共用部は非空調エリアとしている。外周部の断熱性向上を図る。空調は本部室等はビル用マルチエアコン、個室更衣室はルームエアコン。換気は全熱交換機方式。電気は高効率照明器具の採用、省エネ化を図っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 部材の再利用が可能のように、躯体と仕上げ材は分別可能とし、間仕切り壁、天井はLGS+ボードとしている。また、冷媒にはODP=0を採用し、フロン・ハロンの回避している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> メインスタンドは、グラウンド側への開口部(通路・階段)を多く設け、風通しを阻害しないよう敷地境界から離して計画している。日影は地盤面においても規制値の2時間・3時間ラインが敷地内から外に出ない計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される